

日交研シリーズ A-667
平成 27 年度自主研究プロジェクト
「ライフスタイルの変化にともなう新たな物流サービスに関する研究」
刊行：2016 年 10 月

ライフスタイルの変化にともなう新たな物流サービスに関する研究
Study on the New Logistics Services by the Change of Lifestyle

主査：岩尾 詠一郎（専修大学 商学部教授）

Eiichiro IWAO

要 旨

近年の少子高齢化による、過疎化問題や高齢者の介護問題や医療問題、女性の社会進出や生活の 24 時間化、商品の差別化等による生活の多元化、および情報化や国際化により、人々のライフスタイルが変化している。

この少子高齢化、生活の多元化、情報化、国際化は、小口貨物の多頻度輸配送の増加等の物流サービスに影響を与えることがあるため、ライフスタイルの変化により、新たな物流サービスが必要となる場合もある。このことから、ライフスタイルの変化と新たな物流サービスの相互関係を明らかにするとともに、新しい物流サービスの成立要件を明らかにする必要がある。

そこで、本研究では、ライフスタイルの変化と既存の物流サービスの事例を明らかにし、既存の物流サービスを分類し、ライフスタイルの変化との相互関係を明らかにするとともに、ライフスタイルの変化にともなう新たな物流サービスが成立する要件を明らかにしていくことを目的とする。

具体的には、下記の手順にそって研究を進めた。

1 章の『はじめに』では、本研究の背景と目的について述べた。

2 章の『ライフスタイルの変化の定義と変化の実態』では、ライフスタイルの変化と変化の実態を示した。

3 章の『高齢化における商流チャネルと物流チャネルの具体的な変化』では、ライフスタイルの変化のうち、高齢化に着目して、高齢化が小売業と消費者間の商流チャネルと物流チャネルに与える影響について述べた。

4 章の『コンパクトシティの実現前後の物流効率化と環境負荷削減の数値的な分析』では、コンパクトシティが実現したときの物流の効率化の有無を明らかにした。

5 章の『集落拠点を活用した中山間地域の物流効率化に関する研究』では、住宅までの生活必需品の輸送（動脈物流）と住宅からの家庭ごみの輸送（静脈物流）の組合せを対象に、中山間地域を対象とした「動脈物流と静脈物流の組合せ」による効果を明らかにした。

6 章の『宅配の末端配送における輸送形態とその評価に関する研究』では、宅配便の末端輸送に着目して、末端輸送のコストから見た宅配サービスの成立可能性と行政支援が必要となる境界線を明らかにした。

キーワード：ライフスタイル、物流サービス、コンパクトシティ、中山間地域、宅配便

Keywords : Lifestyle, Logistics Services, Compact City, Hilly and Mountainous Area, Delivery Services